

# 花巻市 博物館

目次／P 1-4 企画展「ブドリのイーハトーブ災害ノオト」／P 5  
テーマ展「博物館のひなまつり」／P 6 花巻市博物館活動レポート  
／P 7 館長コラム・行事案内・インフォメーション／P 8 花博コレ  
クション



## だより

2021.12  
No. 65

文化庁「地域ゆかりの文化資産を活用した展覧会支援事業」

令和3年度 花巻市博物館 企画展

# ブドリの イーハトーブ災害ノオト

～近世近代東北の災害史～

An Exhibition about Historical Disasters in the Tohoku Region  
"Budori's notebook of Disasters in Ihatov"

Illustration by Kon Minako

2011年3月11日14時46分。これは、東北地方で生活する者にとって忘れがたい日付と時間です。10年前、あの時のことを聞くと、ある人は口をつぐみ、ある人は泣き出しました。恐ろし気に語り始める人もいました。

著名な物理学者であり随筆家でもあった寺田寅彦は、稀にしか起こらない災害を覚えていられない私たち人間は、過去の記録を頼りにすべきだと記しました。

本展は、主に江戸時代以降から東日本大震災までの自然災害と人災的側面の強い飢饉や戦災なども取り上げ、忘れた頃にやってくるであろう災害を、覚えておくよすがにしたいと試みた展覧会でした。しかし、コロナ禍という新たな災害が昨年度の開催を阻み、今年度の開催となりました。

忘れた頃だけではなく、予想だにしない災害があふれる世の中を、花巻の先人、宮沢賢治の描いた「グスコーブドリの伝記」から飛び出したブドリがナビゲートします。



JAPAN CULTURAL EXPO



文化庁

Agency for Cultural Affairs,  
Government of Japan



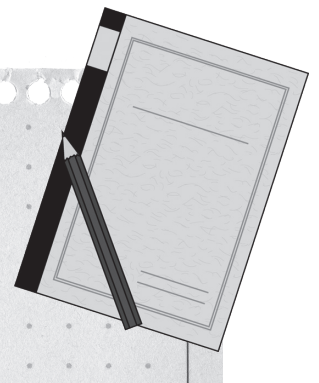


# ブドリのイーハトーブ災害ノート

## ～近世近代東北の災害史～

会期中無休

令和4年2月11日(金・祝)～5月8日(日)



### プロローグ

「グスコブドリは、イーハトーヴの大きな森のなかに生まれました」という書き出しで始まる、宮沢賢治の童話『グスコブドリの伝記』。このブドリが物語から飛び出してきました。

どうやら、イーハトーヴのある東北地方で起きた災害が気になる様子。ブドリは手にしたノートに古くからの災害について見聞きしたことを書き付けていきます。

### ～ 特別展示案内 ～

○宮沢賢治の直筆原稿を展示します！

令和4年3月5日(土)～13日(日)

『グスコブドリの伝記』が出来上がる前に宮沢賢治が執筆した「グスコブドリの伝記」の直筆原稿を展示します。

※この期間以外は複製品の展示となります。



### ① 冷害と飢饉

東北地方は、東から吹き付ける「やませ」という冷たい風によって作物の生産が不安定になりました。これによって、多くの飢饉が発生してきたと考えられます。私と妹のネリも幼いころに飢饉を経験しました。

特に江戸時代に主要な作物であった米は、年貢として納めるために作らなければならなかったのですが、冷害にとっても弱い作物で、なかなか豊作にはなりませんでした。しかも、少しばかり取れた米も藩に差し出さねばなりませんでした。領主も幕府に米を納めなければならなかったからです。

米沢藩の藩主、上杉鷹山は領民たちを飢餓から救うために様々な工夫を凝らしました。

時代を経ても、近代化に取り残された東北の貧しさは変わりませんでした。昭和時代に入ってなお、貧しさのあまり娘を売りに出す親がたくさんいました。

### ② 疫病

現在は「新型コロナウイルス」の蔓延で世界中が大変なことになっているようです。

江戸時代にも飢饉のあとに体力の落ちた人々を疫病が襲いました。当時は原因もわからず、子どもたちが疱瘡やコレラにかからないようにお祈りしたようです。疱瘡の神様は赤い色をしているので、花巻では花巻人形に赤い色をつけて疫病退散を願ったのではないかな。

岩手県出身の後藤新平という人は、明治時代に病気の兵士が戦地から帰ってくる際に「検疫」を行って、日本に病気が蔓延するのを防ぎました。ほかにもたくさん功績を残しています。

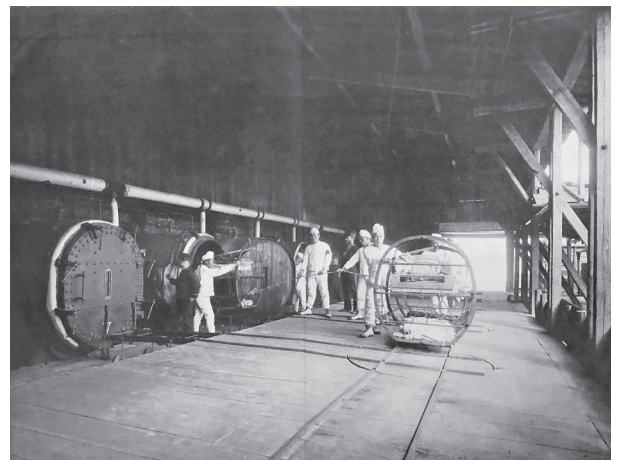


写真 蒸気消毒汽缶 既消毒側  
(奥州市後藤新平記念館所蔵)

### ③ 雪害

東北地方の日本海沿岸地域は特に雪の多い地域として知られています。美しい雪景を作り出す雪が害になることもあるなんて。

山形県の松岡俊三はこのことを国会で声高に叫びました。雪国の人たちの生活をよくするための国の機関を立ち上げて、山形県新庄市に「積雪地方農村経済調査所」が設置されました。



## コラム 鉱山災害と鉱害

東北は金などが産出される地として、古代から知られていました。そういえば、平泉に建立された金色堂なんてすごいものだ。

しかし、金や銀なんて簡単に取れるものではなくて、江戸時代や明治時代に至っても、たくさんの労働者が坑道に入って掘削をしていたようです。機械もない時代は手掘りでしたから。

小坂鉱山は平成時代まで継続していた鉱山ですが、明治時代以降に煙害が深刻化して、森林が失われたので、後に植林を行いました。ニセアカシアの木を植えたようです。

### ④ 風水害・土砂災害

江戸時代、飢饉と並んで最も多く発生したのは水害だと考えられます。特に洪水の時は白髭の人物が波頭に立っていたという伝承も伝わっているらしい。早池峰神社も白髭大明神の祠があって、江戸時代には既に祀られていたことが分かっています。

でも、人々は水害に対して手をこまねいていただけではなく、川の付け替え工事をしたり、護岸工事を行ったり、様々な対策をしてきました。

それでも、土砂崩れはたくさん起こっていて、特にたくさん雨が降った後に地震が発生すると起こりやすいのです。

台風になると、風と水害が一気に起きることもありました。昭和時代のカスリン・アイオン台風などは大変な被害をもたらしました。風の被害は果実など商品作物に傷をつけたりして、売れなくなってしまうこともありました。

### ⑤ 地震・津波

日本列島は災害列島だなんてよく言われますが、東北の地もご多分に漏れず昔からたくさんの地震が発生してきました。

地面の下にはプレートというものがあって、少しずつ動いています。そのひずみがちょっとずつたまって、ある時に一気に跳ね返ったりする。それで起きるのが「海溝型地震」というもの。日本列島は、4枚のプレートがひしめき合う地域で、世界でも地震の多い地域に数えられます。

それだけではなく、足元の真下で地面が引っ張ら

れたり押されたりしてずれると、その影響で地震が発生したりします。「内陸型地震」といいます。

地震が発生して建物が崩れたり倒れたりすると、下敷きになって亡くなる人もいました。



「大海嘯極慘状之図」（岩手県立博物館所蔵）

それだけではなく、海溝型地震で怖いのは津波です。津波については、地震のすぐ後に来るのか、時間がたってから来るのか分かっていません。ですから、津波が発生することが予測される場合は逃げるしか手がないのです。岩手ではこれを「津波てんでんこ」として伝えてきました。津波の時は、家族や友人などのことよりも、てんでバラバラでもいいからとにかく高いところに逃げましょうという意味です。

地震と津波については、たくさんの研究者がメカニズムや古い時代のことを研究しているのですが、なかなか予想したりすることは難しいのです。明治三陸地震と津波の時には岩手の山奈宗真という人が沿岸をくまなく調査しました。

それでも、近年は緊急地震速報というシステムができあがり、地震の前にはテレビやスマートフォンにお知らせが来るようになりました。これは、ずいぶん被害の軽減に役立っているのではないかしら。



## コラム 地震と景観

地震が発生すると、地面が上がったり下がったりすることがあります。難しい言葉では隆起や沈降というようです。

そうすると、もともと海の下だった場所が陸地になったり、逆にもともと地面だった場所が海の下に入ってしまうこともあります。



こうして、青森県の西岸にある千畳敷のように景観がで上がることもあれば、秋田県にある象潟のように、もともとは宮城県みやぎけんの松島に似てたくさんの島が浮かぶ名勝が、せりあがって地面になってしまう場合もありました。この景観を保護しようと立ち上がったのが、当時の蛸満寺かんばんじの住職であった覚林という人物です。覚林の呼びかけによって、後に保存運動が高まりました。

### エクストラ 3.11 東日本大震災

平成 23 年 3 月 11 日、それは東北で暮らす私たちが忘れもしない日です。事件や災害が発生した日は何らかの記念日となることも多いのですが、未だに「あの日」や「3.11」と呼ばれるこの震災はまだ進行形なのかもしれません。

東日本大震災という巨大災害はあまりに大きな犠牲と様々な教訓を私たちに投げかけました。



写真 陸前高田市被災状況（大石地区高台より）釘子明氏撮影

### ⑥ 火災

地震や津波にともなう二次災害だけではなく、小さなものから大規模な都市火災まで、古くから各地で多くの火災が発生しています。特に日本の家屋は古くは木造建築が多かったため、燃え広がりやすかったのです。

段々と防火構造の住宅も増えました。最後の都市大火と呼ばれる山形県の酒田大火以降は都市大火は発生していません。しかし、小規模な火災や、化学工場などの火災など、現在に至るまで火災もまた人々を脅かす災害であることは間違いありません。

### ⑦ 火山災害

東北地方には多くの温泉地があります。温泉があるということは、そこに火山があるということです。恵みと災害は背中合わせだと、私は思いました。

例えば岩手県の岩手山や福島県の磐梯山、青森県の岩木山など、江戸時代やもっと前から信仰の対象であった山は、時に恐ろしい姿を見せたのでした。影響は局地的である場合がほとんどですが、火山性の地震が多発することもありました。

### エピローグ

カルボナード火山を爆発させるための仕事に行ったもののうち、最後の一人はどうしても逃げられないと、クーボー大博士に言われたとき、私はすぐに言いました。「私にそれをやらしてください」と。

飢饉を防ぐために、私ができることをしようと思ったのです。

今のイーハトーブ、東北、日本、世界、いろいろなところでたくさんの災害が発生しています。人間がいるところで発生しなければ、災害は災害ではなく、自然現象でしかないように思います。そういう意味では、災害は社会を映す鏡なのです。

みなさんが私のノートを見て、災害について知ることができたら、私は満足です。でも、もし少しでも何かできるようなことがあれば、きっとやってみてください。自分のためだけではなく、誰かのためになることでしょう。

(学芸員 小田桐睦弥)

### ～ イベント案内 ～

- 東日本大震災追悼イベント  
(祈りのメッセージカードを書いて、被災地へ思いを届けることができます)  
令和4年 2月11日(金)祝～3月11日(金)
- シンポジウム「歴史災害と日本」  
令和4年3月12日(土)
- ギャラリートーク(日時未定)13:30～  
期間中 2回程度を予定しています。
- 学芸員講座  
令和4年3月26日(土)13:30～

令和3年度 テーマ展

# 博物館の ひなまつり

期 間：令和4年 2月11日(金・祝)～5月8日(日)



男雛Ⅱ型

ひなまつりは桃の節句とも呼ばれ、雛人形を飾り、菱餅や白酒、桃花などを供えて祝う節句行事です。その始まりは流し雛である

ともいわれていますが、現在のような雛人形を飾り女兒の誕生と成長を祝う行事として定着したのは江戸時代以降のことです。

かつて、花巻地方のひなまつりに花巻人形は欠かせないものだったといえます。多くの家庭が、雛段に衣装雛とともに花巻人形を飾り、子供の成長を祝ったそうです。

これは、高価な衣装雛に代わって花巻人形のような土人形が広く普及していたからだといわれています。



女雛Ⅱ型

花巻人形は、江戸時代後期の盛岡藩領花巻で誕生した土製の郷土人形です。仙台（宮城県）の堤人形を伝習し制作が始まったといわれ、当地方において独自の発展を遂げました。花巻人形は仙台的堤人形、米沢（山形県）の相良人形と共に「東北三大土人形」のひとつに数えられています。

多くの特徴を持つ花巻人形ですが、中でも目を引くのは鮮やかな蘇芳赤と群青のコントラストと桜や梅、牡丹といった色彩豊かな花模様です。



おすわり

本展では、色彩豊かな花巻人形をメインとした、花巻市博物館ならではの雛壇を展示するとともに、当地方の郷土人形である花巻人形の魅力をご紹介します。



五人囃子三味線

(学芸員 小田島 智恵)



## ◆ 関連イベント ◆

○ワークショップ「花巻人形絵付け体験」

日 時 令和4年3月27日(日)13:30～

場 所 花巻市博物館 講座体験学習室

材料費 1,600円～

(選ぶ人形によって値段は異なります)

定 員 15名 ※要申込

講 師 平賀美恵子氏(平賀工芸社)

※申込みは開催日の1か月前より受付開始。

問合せ先 花巻市博物館

☎0198-32-1030(8:30～16:30)



活

動

レ

ポ

一

ト

花巻市博物館では学校や地域の皆様と関わりながら、様々な活動を行っています。

今回はその活動の中から、市内の小・中学校に博物館の職員が赴いて行っている出前授業を紹介します。

花巻市博物館の出前授業は、社会科のカリキュラムに合わせ、縄文時代の暮らし、花巻空襲、昔の道具とくらし、戦国時代と武具、多田等観、花巻電鉄などについて行っています。

出前授業は、博物館見学だけでは出来ない、実物資料を間近で観察したり触れたりすることができるのも特徴です。

また、出前授業だけでなく、博物館での学習や見学の対応も行っています。授業のテーマをあらかじめ設定し、学芸員がその内容に沿った解説を行います。常設展示やテーマ展示などを見学して、クイズを解きながら学習できる「こどもガイド」を利用して見学することも可能です。



花巻市のうつり変わりとくらし



縄文時代の暮らし



花巻空襲



こういった学校との連携した出前授業のほか、博物館では随時、新しい資料の受け入れも行っています。寄贈や寄託といった形で新収蔵品となった資料は、テーマ展などの形で公開されます。



多田等観



マ二車



五鈷杵



仏舍利塔



テーマ展 新収蔵品「あーとへのいざない」展示風景

現在所蔵している資料などは記録保存されるだけでなく、来館者の見学や学習などへ利用されます。また、調査研究の資料としても重要です。花巻市博物館の今後の活動の中で公開していきたいと思っています。

(学芸調査員 佐藤 絵美)

実物資料として多田等観がチベットから持ち帰った宝である五鈷杵やマ二車、仏舍利塔などを持参しました。

館長  
コラム

大池ハス

花巻市博物館の玄関前で育てていた蓮（ハス）が、今年の7月下旬に薄桃色の美しい花を咲かせた。蓮は、インド原産のハス科多年生水生植物で、花言葉は、清らかな心とされる。

また、蓮は極楽に咲く花と言われ、仏教世界では極めて重要な意味を持つ花である。蓮には、五つの徳が備わっているという。その一つが「淤泥不染の徳」であり、不浄である泥の中から芽を出し、水面上に泥に染まらない清浄な美しい花を咲かせることから仏の知恵や慈悲の象徴とされる。不浄の世界で苦しみや悲しみを経験してこそ真の仏の道を歩むことができるという意味らしい。

大池ハスは、平泉中尊寺の大池跡から出土した蓮に付けられた名前である。大池跡は、初代藤原清衡の「中尊寺建立供養願文」に伝えられる寺院のあった場所とされ、2001年の平泉町による発掘調査の際、三代藤原

秀衡時代の堆積土の中から蓮の実が発見されている。出土した蓮の実を恵泉女学園短大の長嶋時子名誉教授が、2005年に開花に成功させたのが大池ハスである。

今回開花した大池ハスは、平泉文化遺産センターが中尊寺から株を譲り受け育てていたものを平泉文化遺産センターの特別な配慮で株分けしていただいたものである。

花巻市博物館のすぐ近くに高松山経塚群がある。そこから出土した陶磁器類は、常設展示室に展示しているが、その中に12世紀の中国産陶磁器の白磁四耳壺がある。白磁四耳壺は、平泉から出土する陶磁器の中で最も高級なものとされ、古代平泉文化を象徴する陶磁器とも言われる。高松山経塚群は、奥州藤原氏と強い絆を持つ人々によって造営されたものと考えられる。

花巻市博物館の前には、池のそばにいた娘が、あまりにも美しいので池から現れた精ではないかと思ったという伝説のある澄んだ水面の「姫ご堤（沼）」がある。高松山経塚に近いこの沼に、八百年の眠りから覚めた大池ハスでいっぱいになりたいと願っている。

（館長 高橋信雄）

行事予定

令和3年12月  
令和4年3月の行事予定

企画展示室

●共同企画展 ぐるっと花巻・再発見！～イーハトーブの先人たち～  
「多田等観一運命のチベット、そして花巻」  
会期：12月11日（土）～1月23日（日）  
休館日：12月28日（火）～1月1日（土）

●企画展「ブドリのイーハトーブ災害ノオト」  
会期：2月11日（金・祝）～5月8日（日）  
（会期中無休）

《関連イベント》

◇シンポジウム「歴史災害と日本」  
日時：3月12日（土）13:30～  
場所：宮沢賢治イーハトーブ館 ホール  
※要申込 聴講無料

◇学芸員講座④「東北地方の災害史～災害の発生と人々の対応～」  
日時：3月26日（土）13:30～15:00  
定員：15名 ※要申込 聴講無料

●テーマ展「博物館のひなまつり」  
会期：2月11日（金・祝）～5月8日（日）  
（会期中無休）

講座・ワークショップ

【講座】

◇学芸員講座③「多田等観と花巻の縁について」  
日時：12月18日（土）13:30～15:00  
定員：15名 ※要申込 聴講無料  
◇館長講座-3「西域と多田等観と宮沢賢治」  
日時：1月22日（土）13:30～15:00  
定員：20名 ※要申込 聴講無料

【ワークショップ】

◇花巻人形絵付け体験  
日時：3月27日（日）13:30～15:00  
定員：15名 ※要申込  
費用：1,600円～（人形の種類によって変わります）

※講座・ワークショップの会場は花巻市博物館講座体験学習室です。  
※講座・ワークショップともに開催日の1か月前より受付を開始します。  
※詳細につきましては、博物館へお問い合わせください。  
※講座・ワークショップの参加者は無料で展示をご覧いただけます。

花巻市博物館

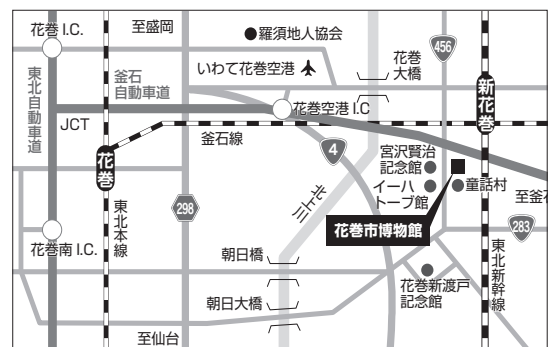
〒025-0014 岩手県花巻市高松 26-8-1  
電話：0198-32-1030 FAX: 0198-32-1050  
開館時間：午前8時30分から午後4時30分まで  
休館日：12月28日から1月1日まで

入館料	小学生・中学生	150(100)円
	高校生・学生	250(200)円
	一般	350(300)円

※（ ）内は20名以上の団体割引料金です。  
※割安な近隣4館共通券もあります。  
※特別展示を行う場合、別に入館料を定める場合があります。

交通案内

- 東北新幹線  
新花巻駅より車で3分
- 東北本線  
花巻駅より車で約15分
- 釜石自動車道  
花巻空港ICより車で約5分
- バス  
新花巻駅より約5分  
岩手県交通 土沢線  
イトーヨーカドー行  
賢治記念館口下車



URL: <https://www.city.hanamaki.iwate.jp/bunkasports/bunka/1008981/index.html>



# 花◇博

## コレクション

Hanahaku collection

### 『ダライ・ラマ 13 世手印、玉璽』<sup>ぎょくじ</sup>

秋田県出身で、花巻とも縁が深いチベット学者の多田等観 (1890-1967) が、ダライ・ラマ 13 世から下賜されたものです。

等観は、数奇な運命によって大正 2 年 (1913) にチベットへ渡り、10 年にも及び修行生活の末、チベット仏教に関する膨大な資料を日本にもたらしました。

等観とダライ・ラマ 13 世の交流は、インドのカリンポンで初めて謁見した時から始まります。そこで等観は、ダライ・ラマ 13 世の名前的一部分が入ったチベット名を与えられました。

チベット入国後、等観はダライ・ラマ 13 世の庇護の下、仏教修行に励み、外国人で初めて最高学位であるゲシェー (仏教博士) に任ぜられました。

チベットでの生活の中で、ダライ・ラマ 13 世とは師弟関係以上の強い絆を結びます。一般のチベット僧は、年に一度しかダライ・ラマ 13 世に謁見できませんでしたが、等観はダライ・ラマ 13 世のもとに行きさえすれば、いつでも会うことができましたようです。

また、等観が帰国する前夜にはダライ・ラマ 13 世と枕を並べて名残を惜しんで話をしながら寝たといわれます。その夜が明けて、等観が旅立つ際にダライ・ラマ 13 世が等観の首に掛け与えたのが左の手印です。浅黄色の絹地に、サフランで清浄に洗い清めたダライ・ラマ 13 世の両手型を押し当てられ、さらに法王の金印も押されています。等観は、このことはチベットでもかつてないことだったとし、師僧が弟子に悟道の熟達を証明する意味があったのではないかと、思い起こしています。

12 月 11 日から開催の共同企画展「多田等観一運命のチベット、そして花巻一」では、等観がチベットより請来した様々な品々をはじめ、花巻での日々にまつわる資料を紹介します。ダライ・ラマ 13 世にまつわる貴重な資料も展示しますので、この機会をお見逃しなく。

(学芸調査員 松橋香澄)



『ダライ・ラマ 13 世手印、玉璽』  
大正 12 年 (1923) / 館蔵

令和 3 年度花巻市共同企画展

「多田等観一運命のチベット、そして花巻一」

▷期 間 12 月 11 日 (土) ~ 1 月 23 日 (日)

▷休館日 12 月 28 日 (火) ~ 1 月 1 日 (土)